



四頭の怪物持つてただひとりでロング夜勤の戦場に立つ

肩幅に足を開いて腰落とす古武術のこと介助の構え

寝たまりで言葉を忘れた澄んだ目に映るポロシャツ襟を正して

やりがいで燃やす現場の火は消えて根腐れ起す介護士の水

青いまま福祉のドアをノックして真つ赤な嘘で両手を染める

出棺の音鳴り響くどれだけ寄り添えたらう？静寂が来る

ケアをした誰かの感謝を居場所だとしたらダメかな？ねえダメかなー？

夕暮れが思い出たちを照らすから望郷なぼれ頬を濡らして

叫ぶのは精一杯の「助けて」で静かになるのは諦めか否か

少しだけ増えたお金を持ちながら月の光であべこべに舞う

たんかいご／非常口ドット